

Practical Report

中京工業地帯として発展を遂げてきた名古屋市南西部の一角に中部ろうさい病院勤労者予防医療センターがある。工場に囲まれた立地条件の中で、利用者を広げるための多彩な健康サポートプログラムを展開している。

◆総力で進める予防医療活動

中部ろうさい病院勤労者予防医療センターは中部ろうさい病院内2階に設置されている。平成14年4月のセンター開設以来、勤労者の生活習慣病や過労死などの予防医療に取り組んできた河村孝彦所長にセンターの活動についてお話を伺った。

「開設時には、医師の私と産業看護師（保健師）、管理栄養士、理学療法士の4人が顔を揃えました。まさに生活習慣病対策の四銃士です。糖尿病を専門とする私は、予防医療活動の経験を通じて、生活習慣病改善は専門家が単体で指導しつつ、チームでコンビネーションをとってこそ、より効率的に行うことができると考えています」

現在は、医師が1人、嘱託の保健師1名が増え、当初からいる事務職2人を含めると8名のスタッフがいる。人間ドックを受検した人を対象に、データを生かして運動や栄養の各指導ができるメリットはあるが、手が回らないという苦勞もある。開設当初はセンター内を中心として健康に関する講演や運動指導を行っていた。ただ、対象となる勤労者が気軽に集まれるような立地条件ではないため、勤労者医療への貢献を模索する中で、企業に出向いて講演や保健指導をする方向へ移行していった。

「現在9つの労災病院に勤労者予防医療センターがありますが、当センターは必ずしも立地条件がよいとはいえません。勤労者の利用をただ待っているより、積極的に声をかけていこうということになりました。幸い、私

工夫をこらした予防医療の活動を通じて 働く人の健康づくりをサポート、 勤労者に安心を提供する

中部ろうさい病院勤労者予防医療センターの活動から.....

勤労者医療活動レポート 16



ランチョンセミナー
。おしほり はし スプーンは 1人1コずつ
。お茶も 1人1コ
。野菜ジュース、ヨーグルトは お好みでどうぞ
。お弁当 バスタ サンドイッチ サラダ(お肉のみ)の中からお好きなお取り下さい。
ランチョンセミナーのお弁当を選ぶ様子。ホワイトボードには上記のような指示があり、栄養の組み合わせを食べながら学ぶことができる。



現在のスタッフ（下中央が河村所長）



外部で講演をする河村所長（上）
と管理栄養士（右）



が相談員を務めている愛知産業保健推進センターでは企業の保健師や衛生管理者等を対象にしたセミナーが開かれ、講演する機会があります。そこで私の講演の後、個別に相談を受けているなかで個々の事務所へ講演を実施し始めました。さらにこれはお隣の三重県や岐阜県の産保センターからも講演の依頼があり、産保センターの協力のもと、企業へ出向ききっかけが生まれました。今では、私だけではなく、当センターの管理栄養士や理学療法士、産業看護師が直接講演に伺っています。講演の組み合わせも可能で、毎週スタッフが外で講演をしているのではないのでしょうか。それぞれの専門性とコンビネーションという開設当時の原点をこれからも大切にしていきたい」と河村所長。

◆豊富なサポートプログラム

当センターの健康サポートプログラムは、立地条件に打ち勝つアイデアに満ちている。その一つに、仕事の都合などでセンターになかなか足を運べない勤労者のために平成15年から始めた「郵送による栄養指導」がある。生活習慣病や食事のバランスが気になる人が、自宅や職場で栄養指導が受けられるシステムで、利用者は電話やFAXで申し込んだ後に届く食生活調査表に2、3日分の食事を記入して返送するだけでよい。管理栄養士がコンピュータで栄養分析をするとともに、最適な食生活の提案と栄養指導内容が届けられる。企業単位の申し込みもあり、企業の衛生管理担当者からも好評を得ている。勤労者医療への貢献という視点が郵送という発想につながった。

ネーミングが楽しいのが「ちょこっと工夫したセミナー」。センターでは個々のデータをもとに行う個別指導と、教室形式のセミナーを行う集団指導があるが、魅力あるセミナーのアイデアをスタッフ全員で模索している。例えば昼食をとりながら栄養の話聞くランチョンセミナー。実際に食べながら聞くことで栄養についての関心が深まる効果を狙った。また、河村所長の生活習慣病の講演後、実際に管理栄養士が調理方法について話をするなど、効率的なプログラムを進めている。

「予防医療に近道はありません。高血圧、脂質代謝異常・糖尿病などの生活習慣病は重症化すれば過労死につながります。元気に働き続けるためには生活習慣病に対する知識を深め、正しい生活改善こそが大切だということにまず気づいてもらう必要があります。『運動不足』という診断をするだけでなく、ではどういう運動をすればいいかということを具体的に指導していく。そこに私達の役割があります。

私たちは営利を目的とした組織ではありません。そのことを多くの人たちに知って頂き、センターを積極的に利用してもらいたい。こちらから出向く機会もどんどん増やしていきます」。河村所長が力を込めた。

事務長が最後に一言。

「河村先生は多忙な方ですが、多忙を理由とせず常に精力的に予防医療活動に取り組む情熱はスタッフに伝わり、チームの結束を深めています」。立地条件に打ち勝つアイデアあふれるサービスを目指し、地道な努力が続く。